

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 平成30年3月16日
調査研究事項	<p>ア．義務教育未修了者に関すること</p> <p>イ．入学希望既卒者に関すること</p> <p>・生徒一人一人の学習の状況を的確に把握する方法及び個に応じた指導の在り方について</p> <p>・入学希望既卒者受け入れによる、課題の整理と解決方法について</p>
調査研究のねらい	<p>外国にルーツをもつ生徒が全体の9割を占めており、また、生徒個々の日本語の習熟度や学習状況についても様々である。入学希望既卒者である、ないにかかわらず、個々の生徒に応じた指導方法等について研究することにより、基礎・基本の定着を図り、生徒一人ひとりの日々の生活の質の向上を目指す。</p> <p>本市中学校夜間学級では、平成29年度より入学希望既卒者を受け入れることになっており、今後、若年層や高校進学を希望する生徒が増加し、さらに生徒の多様化が進むことが想定される。入学希望既卒者受け入れに関わって生じる課題を整理し、解決方法について調査研究することにより、受け入れ体制の構築を図る。</p>
調査研究の成果	<p>生徒一人ひとりの日々の生活の質の向上を目指し、基礎・基本の定着に向けた指導の在り方について研究した。特に生徒一人ひとりの日本語能力の実態把握の方法及びその結果を生かした日本語を読むこと、書くことの指導方法について調査研究した。</p> <p>今年度より入学希望既卒者を受入れているが、それに伴う課題の整理や、生徒支援体制についての検討を行った。</p> <p>【7月】</p> <p>・校内研修 テーマ「法制化をどう現場に生かすか」</p> <p>元近畿夜間中学連絡協議会事務局長、全国夜間中学近畿ブロック代表理事の黒川優子氏を講師に迎え、研修会を実施した。</p> <p>「教育機会確保法」「基本指針」「夜間中学の設置・充実に向けて 手引き」などを取り上げ、「法制化」に関わっての講話をしていただいた。講話後、一連の法律や通知類はどう既設の夜間中学に利するところがあるのか、また逆にこれらの変革を受けて今後の夜間中学はどう変わっていくのか、我々教員はどう対応</p>

していくべきか、またどういう行政的支援などが必要になるのかなどについて講師・春日教職員間で意見交換を行った。

今年度より受け入れている5名の「既卒入学者」への対応で日々工夫・苦勞していること、今後の進路保障などで案じられる点や、大阪府下などでの類似例などについても活発な情報交換・話し合いができた。「今」だけでなく「今に至る大きな流れ」や文科省の意図・意向・意識など教職員の法制化理解を深めることができた。単に学習するのではなく、他の夜間中学や自主夜中との異同も踏まえた「春日夜中の明日」についての意見交換は特に意義深く、今後も恒常的・定期的に議論していきたい。

【8月】

- ・校内研修 テーマ「実態に応じた効果的な日本語の授業」

本市教育委員会事務局学校教育課の日本語指導コーディネーターが講師となって、日本語指導についての研修会を行った。

シラバスデザインや授業の組み立て方、日本語授業におけるポイントなどとともに、具体的な教材や、教材分析を基にした使い方等についても講義と、事前に質問のあった事柄について回答する形で、日本語指導や授業改善に向けての助言を行った。

さまざまなテキストの比較、検討を、授業で使える具体的な教材の提案や、教材の使い方等の研究に役立てる。また、本研修会は、教職員が日常生活に結びつけて学習していくことの大切さをあらためて認識する機会となった。来年度以降も日本語指導についての研修を継続していく。

- ・研究協議 「生徒の実態について」

生徒の学習状況をまとめるための様式、高校進学希望者に対する学習指導について話し合った。

【9月】

- ・生徒実態調査

各生徒の学習状況等に関する情報交換を行い、実態を把握するとともに、一覧表を作成し、現状や課題についての共通理解を図った。また、高校進学希望者に対する個別の学習指導にも取り組んだ。

【12月】

- ・第63回全国夜間中学校研究大会・大阪大会参加（先進校視察を含む）

領域別分科会において、新渡日生の現状と彼らをめぐる環境を

テーマに、生徒の実態を元に授業実践報告を行い、成果と課題について述べた。全体会の後、堺市立殿馬場中学校にて授業を参観した。

見学したクラスは、全員が新入生で、初級日本語の学習の段階の生徒であった。日本語指導の授業では、基礎定着のためには、文型を使って文を作って練習することが必要であることを改めて認識した。一斉指導の授業であったが、スムーズに進行されており、これまでの指導法を見直すことができた。先進校との違い検証し、効果的な指導の在り方についてさらに研究していく。また、使用されていた日本語の自主教材の一部を得ることができたので、教材作成に役立てたい。

今後、更に具体的な事例を集め、指導方法についての研究を続けていく。

【1、2月】

・文集の作成

生徒の1年間の学習の成果をまとめ、文集を作成した。完成した冊子は生徒や、市内小中学校、教育関係者に配付する予定である。

・研究協議 「次年度に向けて課題の整理と今後の見通し」

今年度から入学希望既卒者を受入れたが、様々な問題を抱えており、特に心理的、精神的な問題について、対応が必要であった。特別支援を必要とする生徒については、支援体制の確立が求められている。課題を整理し、その対応策について見直すことで、次年度につなげていきたい。